

## 平成 19 年 3 月期 第 3 四半期（累計）決算についての補足説明

当社（東京都千代田区外神田 4 丁目 14 番 1 号、資本金 364 億円、社長：河野 正樹）の平成 19 年 3 月期 第 3 四半期（累計）の連結決算は、売上高 3,392 億円、営業利益 370 億円、経常利益 378 億円、四半期（累計）純利益 234 億円となりました。また、連結総資産は 3,664 億円、連結自己資本は 1,346 億円、連結自己資本比率は 35.5%となりました。

前年同期比で、売上高は、製錬部門で主要メタル価格が上昇したこと、環境・リサイクル部門で順調に事業を拡大していること、電子材料部門、金属加工部門、熱処理部門で自動車関連製品、デジタル家電に関連する製品を中心に販売量を増やしたことにより 1,201 億円（+54.8%）の増収となりました。

営業利益は、環境・リサイクル部門、電子材料部門、金属加工部門、熱処理部門それぞれが堅調に推移し、加えて、製錬部門で主要メタル価格の上昇により大幅に収益を伸ばし、93 億円（+33.7%）の増益となりました。

経常利益は、上記に加え持分法適用会社の収益改善により 135 億円（+55.4%）の増益となりました。

なお、第 3 四半期累計（当期）純利益は、固定資産の売却益などもあり 128 億円（+121.5%）の増益となりました。

財務面では、前年度末と比較し総資産は 571 億円増加しました。これは、土壌処理部門、工業炉での受注増加による工事仕掛の増加、及び主要メタル価格の上昇により原材料が増加したことなど棚卸資産が 294 億円増加したこと、また、メタル価格の上昇に伴い、売上債権が一時的に 317 億円増加したことによるものであります。

なお、有利子負債は、前年度末から 341 億円増加し、1,338 億円の残高となりました。

### 1. 前年同期との比較

部門別売上高は、製錬部門では、白金族の販売量は前年同期比で増加しましたが、銅はメタル価格の下落懸念から、第 3 四半期後半に一部のユーザーが買い控えたことから販売量が減少しました。一方、亜鉛は建材向けに販売量が減少したものの、国内シェアアップにより総量では増加しました。これらに加え、主要メタル価格が上昇したことにより 892 億円増収（+75.3%）の 2,078 億円となりました。環境・リサイクル部門では、廃棄物処理は堅調に推移し、リサイクル原料の集荷も増加したことにより 140 億円増収（+34.1%）の 552 億円となりました。電子材料部門では、PDP（プラズマディスプレイパネル）向け銀粉は第 3 四半期に入りユーザーの在庫調整がありましたが、前年同期比では販売量が増加し、また、LED、ガリウムヒ素ウエハ、メタル粉など総じて堅調に推移したことにより 64 億円増収（+17.8%）の 425 億円となりました。金属加工部門では、自動車部品向けに需要が好調で、銅合金板条、貴金属めっき、セラミックス基板それぞれで販売を伸ばし 234 億円増収（+66.1%）の 588 億円となりました。熱処理部門では、加工部門で設備増強による処理量の増加、また、工業炉も販売を伸ばし 29 億円増収（+18.4%）の 184 億円となりました。

部門別営業利益は、製錬部門は、鉱石原料中の品位低下、価格下落によりインジウムの収益は減少しましたが、白金族の販売量増に加え、銅、亜鉛など高水準で推移したメタル価格の追い風を受け 59 億円増益（+42.9%）の 196 億円となりました。環境・リサイクル部門は、廃棄物処理が堅調に推移したこと、シュレッダーダストリサイクル炉の処理量増加、リサイクル原料の取扱量の増加により 13 億

円増益 (+30.7%) の 56 億円となりました。 電子材料部門は、半導体部門で新規事業の開発コストの増加がありましたが、LED、ガリウムヒ素ウェハ、メタル粉など総じて堅調に推移したことにより 7 億円増益 (+15.8%) の 54 億円となりました。 金属加工部門は、6 億円増益 (+20.5%) の 35 億円となりました。 熱処理部門は、4 億円増益 (+20.1%) の 26 億円となりました。

単位：億円

連結決算	A	B	増減 ( B - A )	
	2005 年度第 3 Q (累計)	2006 年度第 3 Q (累計)	金額	率
売上高	2,191	3,392	1,201	+54.8%
営業利益	277	370	93	+33.7%
経常利益	243	378	135	+55.4%
当期利益	106	234	128	+121.5%

セグメント別 損益状況

単位：億円

	2005 年度第 3 Q (累計)			2006 年度第 3 Q (累計)			増 減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
製 錬	1,185.4	136.9	127.7	2,077.7	195.7	195.6	892.3	58.8	67.9
環境・リサイクル	411.8	43.0	44.1	552.3	56.2	58.1	140.5	13.2	14.0
電 子 材 料	360.4	46.6	46.2	424.7	54.0	52.3	64.3	7.4	6.1
金 属 加 工	354.0	29.2	28.3	587.8	35.1	33.9	233.8	5.9	5.6
熱 処 理	154.8	21.3	20.4	183.9	25.6	25.1	29.1	4.3	4.7
消 去 ほ か	275.0	0.4	23.6	434.5	3.2	12.7	159.5	3.6	36.3
合 計	2,191.4	276.6	243.1	3,391.9	369.8	377.7	1,200.5	93.2	134.6

## 2. 通期見通し

通期の見通しは、主要メタル価格の下落や、電子材料、金属加工部門での需要動向に不透明感も残るなど、収益の下ぶれ要因があります。

通期の業績については、実勢の主要メタル価格、為替レートを前提に、平成18年11月13日の業績修正、売上高4,220億円、営業利益430億円、経常利益430億円、当期純利益220億円に対し、売上高4,570億円、営業利益460億円、経常利益470億円、当期純利益240億円を予想しております。

### 連結業績予想

単位：億円

連結決算	A	B	増減 ( B - A )	
	前回11月13日修正	今回修正	金額	率
売上高	4,220	4,570	350	+8.3%
営業利益	430	460	30	+7.0%
経常利益	430	470	40	+9.3%
当期利益	220	240	20	+9.1%

### セグメント別 損益状況

単位：億円

	前回11月13日修正			今回修正			増 減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
製 錬	2,427	190	184	2,770	240	233	343	50	49
環境・リサイクル	727	76	78	760	77	79	33	1	1
電 子 材 料	541	65	63	548	66	64	7	1	1
金 属 加 工	738	48	48	778	42	41	40	6	7
熱 処 理	262	38	38	261	39	38	1	1	0
消 去 ほ か	475	13	19	547	4	15	72	17	4
合 計	4,220	430	430	4,570	460	470	350	30	40

なお、個別業績予想については、前回予想どおり売上高1,960億円、営業利益135億円、経常利益145億円、当期純利益70億円を予想しております。

今後とも、財務体質の改善、収益体質の強化をはかるとともに、業績予想の達成に向けて全力を尽くしていく所存であります。

《連絡先》 DOWA ホールディングス 経理・財務部門 03-6847-1150 菅原、成田  
 " 企画・広報部門 03-6847-1106 富川、鎌倉

以 上